

18	豊田	益富中学校	フカツ ケイタ
			氏名 深津 慧太

分科会番号	3	分科会名	社会科教育(中学校)
-------	---	------	------------

郷土に深く愛着をもち、仲間と関わり合いながら、
社会参画をしようとする生徒の育成

－ 3年 社会科(公民分野)「博物館を通して豊田市の魅力を発信しよう！」
博学連携の実践を通して －

I 主題設定の理由

本学級は、男子15人、女子15人(うち特別支援1人)の計30人である。4月当初は学級や仲間のために自発的に行動しようとする生徒が少なかったが、行事を通して、仲の良い友達だけではない級友の大切さや自分から行動することの必要性に気付けるようになってきた。社会科に関しては、得意な教科にあげる生徒も多く、普段の授業も意欲的である。しかし、自分の考えを述べるような問い対しては、「自分の考えに自信がない」「他の人と違う考えだったらどうしよう」などといった理由から特定の生徒しか発言できない傾向がある。つまり、重要語句を覚え、社会科の表面的な知識は十分にあるが、自分の考えを深めたり、仲間と考えを共有したりする社会的思考や判断力に関しては不十分であると考えられる。

豊田市は今年の4月に博物館を開館した(研究当時は、建設を始めたばかりであった)。私自身、数年前から新博物館の事業に参加し、改めて豊田市の歴史や博物館に込められた思いに触れる中で多くの学びがあった。しかし、生徒に博物館ができることを知っているかどうか尋ねたところ、5人の生徒しかそのことを知らなかった。生徒は豊田市(郷土)のことにあまり関心をもっていないのかと思い、生徒たちに以下のアンケートを実施した。

①豊田市は好きですか。 ・とても好き(10人)・好き(16人)・あまり好きではない(3人)・好きではない(0人)
②あなたが考える豊田市の魅力は何ですか。(複数回答可) ・トヨタ自動車がある、自動車製造がさかん(11人) ・自然が豊か(10人) ・スカイホールやスタジアムなどのスポーツ(イベント)施設がある(4人) ・環境に配慮した取り組みを行っている、街がきれい等(4人) ・治安が良い(1人) ・明るく活気がある(1人) ・パイプオルガンがある(1人)

多くの生徒が豊田市のことを好きと答えたが、好きではない生徒も数人いた。豊田市の魅力では、トヨタ自動車や足助の香嵐溪をはじめとする豊かな自然と回答する生徒もいたが、「車以外の交通が不便」、「田舎すぎる」といったマイナスな意見も見られた。

新博物館は、「みんなで作りつづける博物館」がコンセプトである。新博物館を教材として、豊田市の魅力が何なのかを考え、それを発信していく活動を通して、郷土に愛着をもって社会参画をしようとする生徒を育てたいと考え、今回の主題を設定した。

II 研究の方法

(1) めざす生徒像

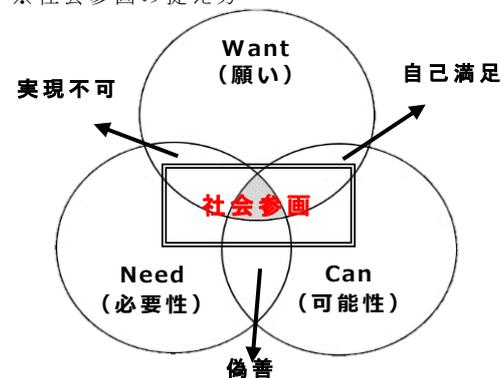
郷土に深く愛着をもち、仲間と関わり合いながら、

社会参画をしようとする生徒

※「郷土に深く愛着」…豊田市の魅力について意欲的に調べ、たくさんの人に発信したいという気持ち。

※「社会参画をしようとする」…「行動化」だけを目指すのではなく、参画への意識や意欲を高めたり、行動化へのきっかけを作ったりする姿を含める。

※社会参画の捉え方



(2) 研究の仮説

めざす生徒像に迫るために、次のような仮説を設定した。

<仮説1> 博物館という地域教材を活用し、子どもが実社会とつながる場を工夫すれば、豊田市の魅力を意欲的に調べ、郷土に深い愛着をもつことができるであろう。 【手立て①③】

<仮説2> ICT機器を活用して情報を整理し、仲間と交流しながら、問題を解決する場を設定することで、自分の考えを実現したい思いや社会参画の意識を高めるであろう。 【手立て②】

(3) 研究の手立て

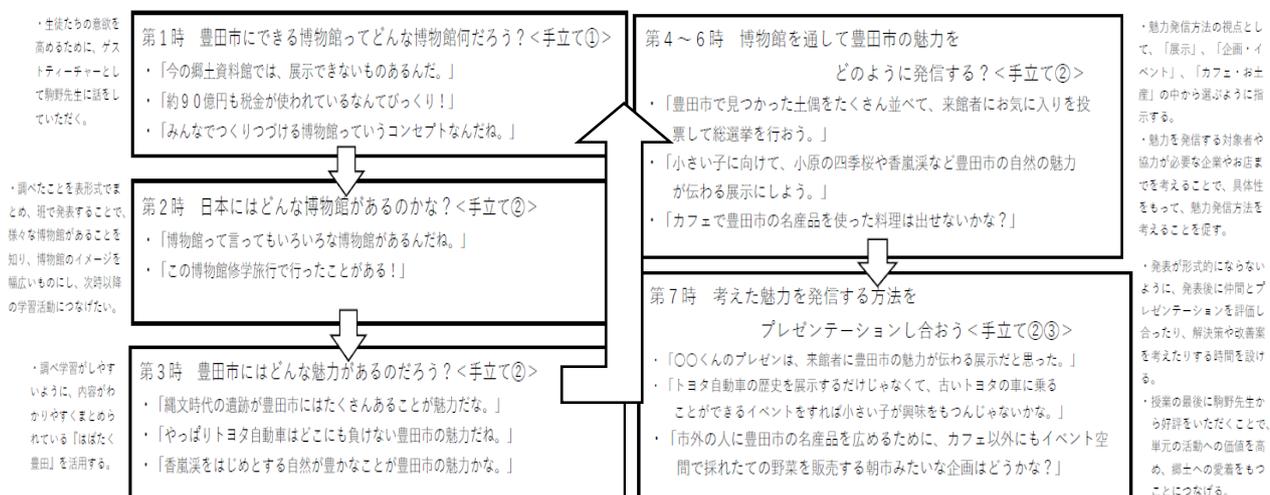
研究の仮説を検証するために、具体的な手立てを、次のように考えた。

<手立て①> 単元のはじめに博物館の概要やコンセプトについて知るために、博物館事業に携わる方をゲストティーチャーとして活用する。(博学連携)

<手立て②> ICT機器を活用して情報を集め、互いの考えに対して、改善策や解決案を話し合ったり考えたりする協働的な学習場面を設定する。

<手立て③> 自分たちが考えた展示を博物館事業に携わる方に発表する場を設定する。

(4) 単元構想図 (7時間完了)



(5) 検証の方法

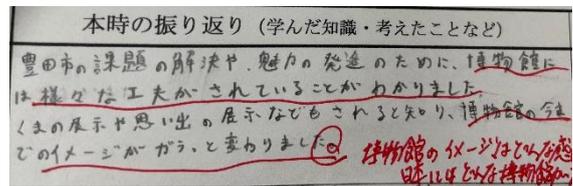
手立てを検証するために、抽出生徒を設定し、ワークシートや振り返り、授業の様子からその変容を追った。

生徒Aの実態	期待する姿
どの教科の学習においても意欲的に学習することはできるが、自分の考えを他者に発表することは苦手である。また、アンケートの中で豊田市については、自然は豊かであるが、「あまり好きではない」と回答した。	自分の考えをもって、仲間と関わり合うことで、社会参画をしようとする想いを高めてほしい。また、豊田市の魅力を調べたり、プレゼンテーションをしたりする活動を通して、郷土への愛着をもってほしい。

Ⅲ 研究の実際と結果

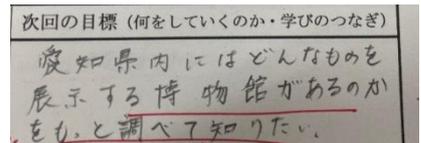
(1) 豊田市にできる博物館ってどんな博物館何だろう？〈手立て①〉

本単元の導入は、博物館準備室の駒野先生に来ていただき、新しくできる豊田市博物館について話をしていただいた。生徒Aも含め、半数以上の生徒は博物館に行ったことがなく、博物館のイメージを問われた際には、「古いものがたくさん展示されている場所」や「歴史好きの人が行く場所」など、印象の良くない生徒が多かったが、ミュージアムカフェやイベント会場などの施設ができることや新博物館のコンセプトが、「みんな



資料1 ある生徒の授業後の振り返り

で作りつづける博物館」ということを知り、博物館のイメージが大きく変わったという生徒も見られた。(資料1) 振り返りを見ると、多くの費用をかけて作られる博物館にたくさんの方が来館し、豊田市の魅力を伝えることが「みんなで作作りつづける博物館」なのではないかと考える生徒もおり、駒野先生を招いたことでこの単元に取り組む意欲を高めることができたと考える。生徒Aは約90億円の税金が使われていることで、豊田市博物館建設が自分自身にも関わっていることを感じていた。また、(資料2)の下線部の言葉から、博物館という施設にも興味をもち、愛知県内にはどんな博物館があるのか調べてみたいと意欲的な様子が見られた。



資料2 生徒Aの授業後の次時への目標

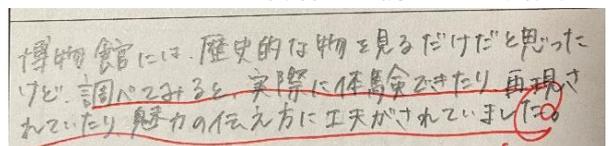
(2) 日本にはどんな博物館があるのかな？〈手立て②〉

豊田市の魅力を調べる前に、次時で生徒は、日本にはどんな博物館があるのかタブレットを活用して調べた。調べていくうちに、博物館に行ったことがないと話していた生徒も、家族旅行で訪れた福井県恐竜博物館や兄弟が修学旅行で行ったカップヌードルミュージアムなどがあることを知り、「そういえば、ここ行ったことある」



資料3 調べている様子

「これって博物館なの」とイメージしていた博物館とは異なる施設がたくさんあることを知った。

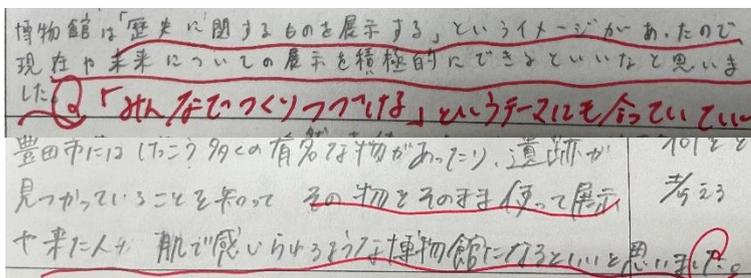


資料4 生徒Aの授業後の振り返り

また、生徒Aが調べた博多の食と文化の博文館（ハクハク）は、オリジナル明太子づくりや博多の「食」や「工芸」の魅力を紹介する展示などがあり、魅力の伝え方も様々であることを学んだ。

（3）豊田市にはどんな魅力があるのだろうか？〈手立て②〉

生徒は、副読本『はばたく豊田』（デジタル化）を活用し、博物館で発信したい豊田市の魅力について調べた。トヨタ自動車について改めて魅力を伝えたいという生徒もいれば、縄文時代の遺跡が豊田市には



資料5 生徒たちの授業後の振り返り

たくさんあることを知り、それを発信したいという生徒、桃や梨といった豊田市の農作物を博物館で発信できないかという生徒も出てくるなど、様々な角度から豊田市の魅力を発見することができた。授業の中である生徒が「teams を使って情報を共有したり、紹介したりしたい」と申し出たため授業の後半にグループを作り、互いに豊田市の魅力について発表し合う時間を設けた。

このように、本課題に意欲的に取り組むことで、郷土愛を深めることができたと感じた（資料5）。また、博物館を通して豊田市の魅力をどう発信するかまで考えながら活動している生徒もおり、単元を通した振り返りが効果的にできていることを確認できた。

（4）博物館を通して豊田市の魅力をどのように発信する？〈手立て②〉

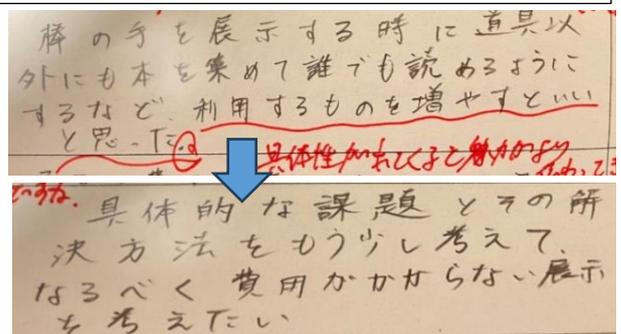
生徒は、調べたことを基に、博物館を通して発信したい豊田市の魅力の内容を決め、どのように発信するかを考えていった。今回は、第1時で教えていただいた博物館の施設を活用するために、発信方法を「展示(企画展示を含む)」、「企画・イベント」、「カフェ・お土産」の中から選ぶよう指示し、また、誰に対してその魅力を伝えるかという対象者、協力をしてもらう必要がある企業やお店など（以下、コンセプトと表現する）も含めて考えるようにした。発信方法とコンセプトを考えることで具体性をもった現実味のある魅力発信の提案をすることができ、社会参画しようとする力を養うことにつながると仮定し、授業を展開していった。また、単元の最後に、駒野先生をはじめとする博物館事業に携わる方に考えた内容を発表するために、今回、パワーポイントを用いて魅力発信の提案を考え、まとめていった。内容を考えていく中で、仲間と情報共有する時間を設け、授業を展開していったところ、内容が似ていた生徒同士が、共同で作成してもよいかとの申し出があったため、生徒たちと相談し、個人の意見や考えを大切にしていこうことや内容が似ているのであればより良い提案になるからという観点から似たような提案内容に限り、ペアでの活動も可能という形に変更した。パワーポイントの使い方については、3年生技術科の学習や前年度の地理学習で既に行って



資料6 考えた内容を紹介し合う様子

いるため、ほとんどの生徒が困ることなく活用することができた。生徒Aは、豊田市には昔から受け継がれてきた伝統的な祭りや文化が多くあることが魅力だと感じ、その中でも猿投地区などで行われている「棒の手」に着目した。はじめは、市外の来館者を対象に、棒の手の歴史をパネルなどで伝え、道具や衣装を展示するという内容であったが、第5時のはじめに、同じ班の生徒と考えている内容を紹介し合う時間を設けたところ、「休日にイベントを通して体験できると魅力がより伝わるんじゃないかな」とアドバイスをもらい、対象者を市外に住んでいる若い世代に変更し、より魅力が伝わる方法を再び考えていった。その後、生徒Aは博物館のパンフレットを片手に「先生、新しい博物館には、図書コーナーという場所があるんですが、この図書コーナーに棒の手の歴史を紹介する本を置くことを提案することは可能でしょうか」と申し出たため、(資料7)の下線部にあるように助言をした。普段の授業では自分の考えをあまり他者に発表しない生徒Aが、仲間の意見を取り入れ、更に、自分なりに魅力を発信する方法を考えていることが分かる場面であった。また、その会話の後に自席に戻る生徒Aの表情には笑みがあり、自分のアイデアがより良いものなるという期待感をもって取り組んでいる様子が見られた。生徒Aの振り返り(資料8)を見ると、展示のコンセプトを基に、具体的な魅力を発信する方法を考えていることがわかる。また、次時への課題として、費用面にも着目していることがわかり、実現させたいという思いをもって意欲的に取り組み、社会参画しようとする様子を伺うことができた。

生徒A 「(博物館資料を示しながら)先生、博物館の施設に図書コーナーという場所があるんですが、この図書コーナーに棒の手の本を置くことを提案するのは可能ですか？」
 教師 「よく見付けたね。博物館の施設を活用して魅力を発信する方法を考えたのだから、是非取り入れて提案してみようよ！」
 生徒A 「(少し笑みを浮かべ)了解しました。ありがとうございます。」
 資料7 生徒Aと教師のやり取り(授業記録より)



資料8 第5時 生徒Aの振り返りと次時への課題

(5) 考えた豊田市の魅力を発信する方法をプレゼンテーションし合おう<手立て②③>

博物館準備室の駒野先生に来ていただき、発信内容が異なる生徒同士になるように、意図的に振り分けた班に分かれ、生徒はパワーポイントを活用してプレゼンテーションを行った。ただ発表をするだけでなく、より社会参画しようとする様子が表れるように、「魅力発信度」、「(対象者の)来客予想」、「実現性」の3観点で仲間のプレゼンテーションを評価し合う活動を

資料9 生徒Aのプレゼンテーション後の様子

生徒A 「(プレゼン後)私の現在の課題は、(資料を見せながら)こちらです。特に、一番上に書いてあるように、多くが地元の祭りで披露されるため生で見える機会が少ないという点です。」
 生徒B 「それだったら、博物館でお祭りをすればいいんじゃないかな？」
 生徒C 「あっ、それいいね。(博物館資料を開きながら)このイベントスペースだったら棒の手ができるんじゃないかな？」
 生徒A 「(資料を覗きながら)たしかに！それだったら博物館に来た人にも棒の手を知ってもらえる機会になるね。すごくいいと思う。ありがとう。」

取り入れた。実際に博物館事業に携わる方に聞いてもらったり、仲間から評価してもらったりすることで、身振り手振りを交えながら熱心にプレゼンテーションを行う生徒が多く見られた。プレゼンテーション後には、互いに良かった点について感想を伝え合った後、考えた魅力発信内容の中で困っていることや課題について、仲間から解決策や改善案を考える時間を設けた。仲間の意見を取り入れることで、自分の考えに期待感が生まれ、社会参画しようとする意欲を高めることにつながると感じた。授業の最後に、駒野先生からご講評をいただき、後日仲間からの意見を取り入れて修正した内容を駒野先生通じて博物館事業に携わる方に紹介していただいた。

IV 仮説の検証

研究の仮説1・2に対して手立て①～③が有効であったかどうか検証をしていく。

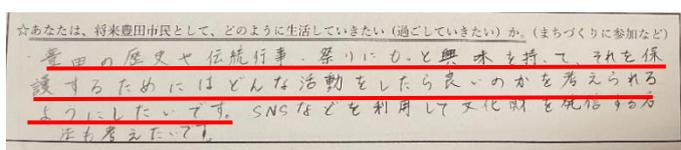
【手立て①】 本研究では、単元の最初と最後に博物館準備室駒野先生に来ていただいた。導入では、「みんなでつくりつづける博物館」という博物館のコンセプトや豊田市の魅力を発信する場と説明していただくことで、単元を通じた活動に意欲を高めることができた。

(資料5) また、博学連携で行った本単元を通して、豊田市の魅力を新たに発見することができ、郷土愛を深める機会になったと考える。(資料5)

【手立て②】 本単元では、ICT機器を調べ学習や情報共有、プレゼンテーションなど様々な場面で取り入れたことで、生徒の考えを深めたり、仲間と学び合ったりすることが効果的にできたと考える。特に第5時の活動において、生徒Aは、仲間と考えた内容を紹介し合うことで、展示以外に魅力を発信する方法があることに気づき、その後の自発的な行動につながったと考える。(資料8)

【手立て③】 博物館事業に携わる方に向けて発表する場を設けたことで、見通しを立てながら物事を考え、論理的に一貫性をもって活動することができた。また、授業の最後に駒野先生からお話をいただき、単元を通じた活動に自信をもち、最後まで意欲的に取り組むことができた。

以上より、手立て①～③によって、仮説の妥当性を示すことができたと考える。ま



資料10 単元終了後の生徒Aの振り返り

た、(資料10)にあるように、本単元を通して、生徒Aは豊田市の歴史や伝統行事、祭りなどに興味をもつことができ、郷土愛を深める機会になったことがわかる。更に、自分自身が伝統行事や祭りなどに意欲的に参加し、活動や魅力を発信する方法を考えていこうとする社会参画の態度を養うことにもつながった。

V 今後の課題と展望

本単元では、また、卒業期のあまり時間が確保できない時期に実践を行ったため、中間発表会など発表する機会が少なくなってしまった。また、郷土愛を深める活動が少し不十分であったため、本研究の反省を生かせるように今後も授業研究に励んでいきたい。